

CASE REPORT 3

総胆管結石に対する内視鏡的採石術における オフセットバルーンの有用性

新潟労災病院 内視鏡診療センター
前川 智先生



はじめに

総胆管結石の治療として、一般的にはEST施行後にクラッシャー鉗子、バスケット鉗子、バルーンカテーテル等を用いて内視鏡的に採石が行われている。なかでも、バルーンカテーテルは、鉗子にて把持困難な結石、複数個の結石、胆泥のかき出しを短時間で行えるという利点等がある。本稿では、最近ゼオンメディカル社から発売されたオフセットバルーンについて述べたいと思う。

症例 1

95歳女性。総胆管結石による閉塞性黄疸にて当科入院。ERCPにて径30mmの結石を認めたため(図1)、EST施行。ゼメックスクラッシャーカテーテルで碎石後、オフセットバルーン(EXP71820P 18mm径 プロキシマルタイプ)を用いることで、短時間で効率よく、比較的大きな多数の結石、胆泥を除去することができた(図2、図3)。



図1



図2

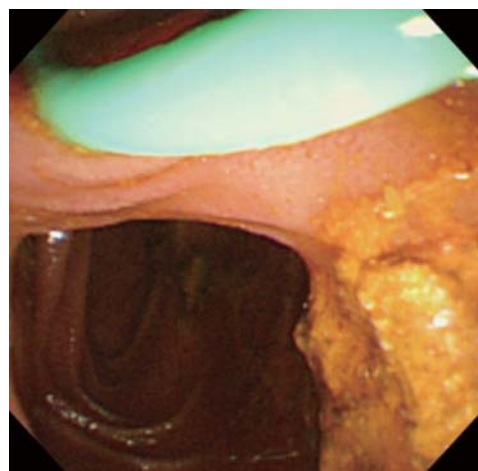


図3

症例2

87歳女性。総胆管結石による閉塞性黄疸にて当科入院。ERCPにて下部胆管に径10mmの結石を認めたため(図4)、EST施行。オフセットバルーン(EXP71820P 18mm径 プロキシマルタイプ)を用いて、短時間に容易に結石を除去することができた(図5)。

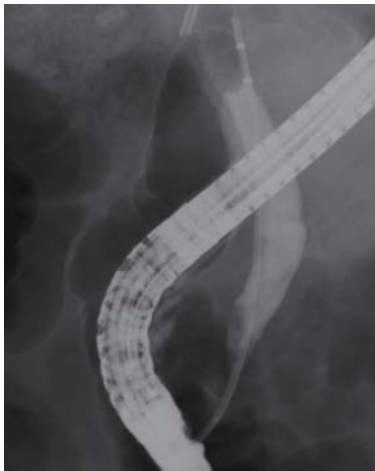


図4

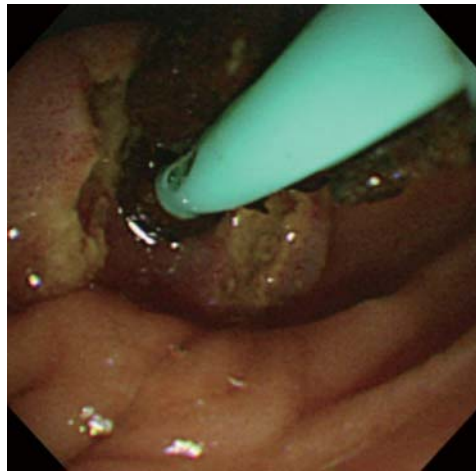


図5



図6

コメント

従来の胆管用バルーンカテーテルは、バルーンの中央にカテーテルが位置しているため、カテーテルが邪魔をして、結石を下部胆管から十二指腸に引き抜けない症例が多く、比較的大きな結石の除去は困難であった。最近発売されたオフセットバルーン(図6)はバルーンの端にカテーテルが位置しており、比較的大きな結石をカテーテルに邪魔されることなく、短時間に効率的に除去することができるという利点がある。また、オフセットバルーンは変形が少なく、胆管壁に固着した結石・胆泥の除去にも優れている。以上のように、オフセットバルーンは総胆管結石の効率的な除去に非常に有用と思われる。

製造販売元

ゼオンメディカル株式会社

URL:<http://www.zeonmedical.co.jp>